

南幌町史跡標柱

教育委員会では、昭和47～8年にかけて郷土の開拓資料に関して全町的に調査・収集を行い、その後、多くの町民の方々や夕張鉄道（株）からの当時の貴重な資料の寄贈があり、これらの収蔵・展示及び活用等を進めて参りました。

昭和58年には、これら寄贈された資料等も含め「町郷土開拓資料（史跡含）」の収集・保存のあり方に関して、社会教育関係委員に諮問し、昭和59年「町史史跡指定の必要性並びに標示方法等について」の答申がなされ、本町の開拓歴史をしるすものとして昭和61年より町文化財保護委員会をはじめ関係委員団体等の検討を踏まえながら、町内36カ所に標柱を設置し、現在に至ります。

発行 南幌町教育委員会
令和2年4月

〒069-0237
北海道空知郡南幌町栄町3丁目3番1号
TEL 011-378-6620 / FAX 011-378-6630

めしな
ぐりせき
ぽろ

南幌町史跡標柱

しせきひょうちゆう

写真：幌向駅通所跡【ほろむいえきていじょあと】

1	ふりがな	ほろむいむらこちようやくばあと
	史跡名	幌向村戸長役場跡
	所在地	南幌町元町 3 丁目 1 番 7 号
【説明】 1895 年（明治 28 年）11 月 19 日の村界の変更が確定した、11 月 22 日に幌向村戸長役場が設置され、石川小膳宅（南 15 線西 8 番地）に仮事務所を置いていたが、同年 12 月末にこの場所に完成し直ちに仮事務所から移転した。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

2	ふりがな	ほろむいむらこうかいどうあと
	史跡名	幌向村公会堂跡
	所在地	南幌町元町 3 丁目 1 番 7 号
【説明】 1911 年（明治 44 年）秋に幌向村役場隣りに農会事務所を新築した。1913 年（大正 2 年）2 月に火災により焼失し、同年 4 月に事務所と住宅を併せて再建した。 この事務所は村議会議場にも利用され、後に公会堂として村民に利用された。 当時の写真は、公会堂前での記念撮影。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

3	ふりがな	ほろむいえきていしよあと
	史跡名	幌向駅通所跡
	所在地	南幌町元町 3 丁目 3 番 19 号
【説明】 旅客の宿泊官馬を使って貨物の運送等に利便をもたらすねらいで、1912 年（明治 45 年）4 月松田与三氏によってこの場所に開所し、交通不便な地帯の文化の発展に大きく貢献した。 1930 年（昭和 5 年）夕張鉄道の開通に伴い、翌年 11 月で廃止となった。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

34	ふりがな	ゆうばりぶとじんじゃあと
	史跡名	夕張太神社跡
	所在地	南幌町南 13 線西 22 番地
【説明】 この地には、1891 年（明治 24 年）頃に 5、6 戸の入植地があり、その地域の一角に八幡大神の標杭を建て、開拓の神として祠っていた。その後、1894 年（明治 27 年）に旧小学校校庭となったところに山田武七らが発起人となり小さな祠を建て、以来 1955 年（昭和 30 年）まで守り神として祠っていた。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

35	ふりがな	ほんちようきばんめじようそくりようか みずのたへいやしきあと
	史跡名	本町基盤目状測量家 水野太平洋敷跡
	所在地	南幌町南 17 線西 4 番地
【説明】 石川邦光が 1892 年（明治 25 年）に本町の測量に入った翌年、家臣の水野太平に幌向村（南幌町）全域の地籍づくりと区割り測量を命じ、楔形鎖分銅の測量機を使い、アメリカ合衆国のタウンシップ制度に基づき、原生叢林、湿地の中での測量を完遂させた。1894 年（明治 27 年）の夏には完成していたと伝えられている。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

36	ふりがな	きづまりのちあと
	史跡名	木詰の地跡
	所在地	南幌町南 20 線西 16 番地
【説明】 町の治水工事発祥の地と言われた「木詰」とは、アイヌの人たちがグラブシトウと呼んでいた大きな沼地の一部である。またこの上流地点は、数多い屈曲部の夕張川に流木、泥砂、ゴミが停滞しており流木の数は百万本ともいわれていた。これが洪水の元凶となり開拓者はこれを除去することで、治水の始まりとなった。		
当時の写真（とうじのしゃしん）		
現在の写真（げんざいのしゃしん）		
Google Map（グーグルマップ）		

31	ふりがな	いせかいこんあと
	史跡名	伊勢開墾跡
	所在地	南幌町南 12 線西 6 番地
【説明】 1893 年（明治 26 年）三重県人板垣賛夫が岩見沢お茶の水から 7 戸の開拓民を転地させたのが伊勢開墾の始まりである。1894 年（明治 27 年）50 戸の三重移住団体は、江別川からパンゲソウカの細流波川の流れを舟を引いて上がり、現在の南 11 線西 7 番地に到達した。この 50 戸と 1895 年（明治 28 年）の入植組 30 戸が開墾に着手した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

32	ふりがな	ひがしほろしょうがっこうあと
	史跡名	東幌小学校跡
	所在地	南幌町南 14 線西 5 番地
【説明】 東幌小学校は、南 14 線西 5 番地の約 7,448㎡（7 反 5 畝 10 歩）の敷地に育生と青葉の両尋常小学校を合併して 1935 年（昭和 10 年）5 月 1 日新設された。初代校長には、岡本補佐夫が赴任し 9 年余り新設学校の経営に尽力された。1972 年（昭和 47 年）には学校統合により南幌小学校の分教場となり、翌年 3 月に廃止となった。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

33	ふりがな	ばんすいしょうがっこうあと
	史跡名	晩翠小学校跡
	所在地	南幌町南 12 線西 15 番地
【説明】 1935 年（昭和 10 年）南 11 線西 15 番地にあった校舎は、校舎位置、建物の腐朽度等によりこの地に新校舎が建築され移転した。1959 年（昭和 34 年）9 月 17 日には、開校 60 周年記念式が行われたが、1971 年（昭和 46 年）には学校統合により南幌小学校の分教場となり、1973 年（昭和 48 年）3 月に廃止となった。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

4	ふりがな	ほろむいゆうびんきょくあと
	史跡名	幌向郵便局跡
	所在地	南幌町元町 3 丁目
【説明】 1895 年（明治 28 年）1 月、南 13 線西 8 番地（現菩提寺の西隣）に居を構えた板垣賛夫の住宅 8 畳間 1 室を仮事務所とし幌向郵便局が設置された。1897 年（明治 30 年）には初代局長に板垣賛夫が就任し、1895 年（明治 28 年）1 月 16 日より郵便物集配業務が開始された。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

5	ふりがな	ほろむいうながだい3こうもんあと
	史跡名	幌向運河第 3 閘門跡
	所在地	南幌町南 13 線西 9 番地
【説明】 この運河は、夕張川の取水口と江別川の落口との落差を利用して閘門方式を取り入れた運河を開削し、1896 年（明治 29 年）に完成させ、船運による生活物資の搬入と農産物の搬出に利用された。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

6	ふりがな	けいばしょうあと
	史跡名	競馬場跡
	所在地	南幌町南 12 線西 9 番地
【説明】 1897 年（明治 30 年）頃より部落の草競馬が行われ、1902 年（明治 35 年）頃には各部落が連合して競馬会が開催された。 これによって、馬産奨励のためこの場所に競馬場を作り、農耕馬の競馬が行われていた。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

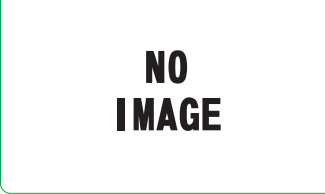
7	ふりがな	たいしょうえん
	史跡名	大正園
	所在地	南幌町元町 3 丁目 2 番 1 号
【説明】 1913 年（大正 2 年）、この場所に昔の在郷軍人会の手によって天然古川を利用した池（築山）グランドなども作って公園とした。 1915 年（大正 4 年）当時南幌小学校校庭の忠魂碑を公園内に移し、現在の石碑を建てたが、1947 年（昭和 22 年）グランドを残し廃止した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

8	ふりがな	ほろむいそんりつみなみほろじんじょうこうとうしょうがっこうあと
	史跡名	幌向村立南幌尋常高等小学校跡
	所在地	南幌町元町 3 丁目
【説明】 開町以来、1905 年（明治 38 年）まで本町の小学校は、尋常小学校だけであったため、早くから町民の間で高等科設置が強く要望されており、この場所に認可申請を行い、1906 年（明治 39 年）4 月 1 日から南幌尋常高等小学校が認可となり、初代校長には、田口晋吉が赴任した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

9	ふりがな	しんゆうばりがわきりかえちてん
	史跡名	新夕張川切り替え地点
	所在地	南幌町南 16 線西 0 番地
【説明】 1909 年（明治 42 年）北海道の治水計画に基づいて、1922 年（大正 11 年）に夕張川新水路の開削がはじまった。夕張川新水路の全面開通は 1936 年（昭和 11 年）8 月 17 日で、この日、旧夕張川との接点（南 16 線西 0 号付近）は多くの町民が集い、歓声の中、旧河道が閉鎖され新川への土留めが撤去された。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

28	ふりがな	ゆうばりてつどうばんすいえきあと
	史跡名	夕張鉄道晩翠駅跡
	所在地	南幌町南 11 線西 14 番地
【説明】 1930 年（昭和 5 年）11 月 5 日に鉄道が開通に伴い、町内には 2 つの営業所が設けられ、この場所は晩翠駅として営業を開始した。晩翠駅は簡易駅として駅員が配置されず不便であったため、1947 年（昭和 22 年）8 月 14 日より停車場に昇格し、駅員 1 名配置され、乗車券の発売及び貨物の発着を取り扱うことになった。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

29	ふりがな	かいたくしよきのぼちあと
	史跡名	開拓初期の墓地跡
	所在地	南幌町南 15 線西 6 番地
【説明】 開拓の初期から、1909 年（明治 42 年）二級村制実施によって確立した幌向村（現南幌町）共、同墓地設置までの 16 年間は、不幸にして病魔に倒れた人たち、生後間もなく息を引き取った幼子たちの遺体が、この地（南 15 線西 6 番地）に埋葬、茶毘に付されていた。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

30	ふりがな	こばやしわたしあと
	史跡名	小林渡し跡
	所在地	南幌町南 19 線西 10 番地
【説明】 10 号渡船場飛騨部落の発達とその対岸長沼村の発達に伴い、交通の面の不便さを考慮し、ここに 10 号渡船場が開かれた。1913 年（大正 2 年）4 月、長沼側に住む坂下弥次郎が施設渡船場を出願し経営したが、1915 年（大正 4 年）4 月より小林定吉が引き受けて、夕張川切替工事まで経営した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

25	ふりがな	つるぬまあと
	史跡名	鶴沼跡
	所在地	南幌町南 18 線西 17 番地
【説明】 鶴沼は、本町で唯一の大きな沼でアイヌはこの沼を 越湖 （ラプシトウ）と呼び、安政年間には 周囲七里 （約 28 キロ）もあった。この地には、集まる鳥類の中で最も美しい鶴が、この沼の名称に選ばれた。鶴沼には多くのカラスが息づいていたため、真珠の養殖が試みられた。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

26	ふりがな	ゆうぱりぶとじんじょうしょうがっこうあとち
	史跡名	夕張太尋常小学校跡地
	所在地	南幌町南 14 線西 20 番地
【説明】 本校は 1899 年（明治 32 年）3 月に開校され、1927 年（昭和 2 年）まで南 13 線西 22 番地にあったが、校舎のいたみがひどく、南 17 線西 17 号沿線に多数の入地者があった関係上、通学距離においても不便が多く、移転増改築の必要に迫られ、1927 年（昭和 2 年）11 月 29 日この地に木造平屋校舎が新築された。当時の写真は夕張太小中学校（昭和 23 年）。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

27	ふりがな	ゆうぱりてつどうみなみほろむいえきあと
	史跡名	夕張鉄道南幌向駅跡
	所在地	南幌町中央 2 丁目 4 番 1 号
【説明】 1929 年（昭和 4 年）7 月 28 日、栗山駅より長沼・南幌を経て省線野幌駅に接続する 23km の工事が着工、翌年 5 年 11 月 3 日に開通式が行われた。町内に営業所としてこの地に南幌向駅が設けられ、開通と同時に旅客・貨物・手荷物等の業務を取り扱い営業を開始した。1975 年（昭和 50 年）夕張鉄道の廃止に伴い業務を終了した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

10	ふりがな	いすずじんじやさんどういりぐちあと
	史跡名	五十鈴神社参道入り口跡
	所在地	南幌町南 12 線西 4 番地
【説明】 1896 年（明治 29 年）9 月この地に祠を建て、翌年 9 月 17 日、団体長板垣實夫が所有地二反三畝を寄付して三重県宇治山田市鎮座伊勢神宮より天照大神の分霊を受け、無願五十鈴神社を創建し、毎年 9 月 15 日を例祭日と定めた。 五十鈴神社は、三重団体の守護神として奉祠した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

11	ふりがな	ほろむいそんりついくせいじんじょうしょうがっこうあと
	史跡名	幌向村立育生尋常小学校跡
	所在地	南幌町南 12 線西 5 番地
【説明】 1899 年（明治 32 年）2 月 11 日、この場所に開校した。 校舎は木造平屋を建築し、1899 年（明治 32 年）2 月 10 日に中井五十若が初代校長に任命され、尋常科 4 年制、2 学級編成として発足したが、翌年、南 12 線西 4 番地に移転した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

12	ふりがな	ほろむいそんりつあおばじんじょうしょうがっこうあと
	史跡名	幌向村立青葉尋常小学校跡
	所在地	南幌町南 16 線西 6 番地
【説明】 松井倉蔵より 500 坪敷地の寄付を受け、草葺平屋校舎を建築し、1899 年（明治 32 年）2 月 8 日、修業年限 4 ヶ年の尋常小学校として開校した。1933 年（昭和 8 年）3 月、青葉校は育生校と合併して東幌小学校が設置されたので、37 年の歴史を残して 1935 年（昭和 10 年）4 月 30 日をもって閉校した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 		
現在の写真（げんざいのしゃしん） 		
Google Map（グーグルマップ） 		

13

ふりがな いしかわくにみつやしきあと
史跡名 石川邦光屋敷跡
所在地 南幌町南 17 線西 3 番地

【説明】

石川邦光は、1870 年（明治 3 年）蝦夷地の開拓を志すため、移民団を組織し室蘭に入植したが、開拓は困難を極め一旦帰郷した。1893 年（明治 26 年）5 月移民団と共に夕張川の右岸のこの地に入植し石川部落を開いた。石川邦光は、この地に居宅を造り開拓の指揮所とした。当時の写真は、石川邦光公来北記念写真。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



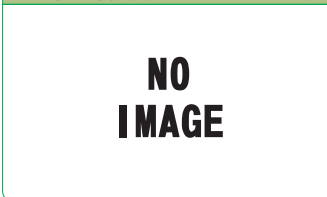
14

ふりがな まるきんとせんばあと
史跡名 丸金渡船場跡
所在地 南幌町南 17 線西 5 番地

【説明】

1893 年（明治 26 年）より石川団体が夕張川沿岸西 4 号のこの地に入植し、石川部落の拠点となった。夕張川対岸も次第に開拓が進められ、幌向と長沼間の往来も始まり、渡船の必要が生じてきたため、長沼側に住む金脇三吉（丸金）が私設渡船場を開始した。人の交通よりも生活物資の運搬が主であった。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



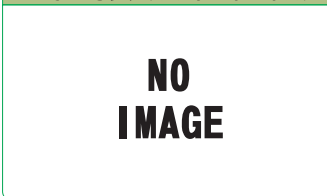
15

ふりがな はちまんじんじゃあと
史跡名 八幡神社跡
所在地 南幌町南 16 線西 6 番地

【説明】

1894 年（明治 27 年）、団体長である石川邦光が、郷里宮城県伊具郡角田村に鎮座する八幡大神の分霊を奉遷し、移住地区のこの場所に祠を建てて祠り、毎年 9 月 19 日を例祭とした。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



22

ふりがな ゆうばりぶととせんばあと
史跡名 夕張太渡船場跡
所在地 南幌町南 12 線西 22 番地

【説明】

1890 年（明治 23 年）、この地に入植した目黒市太郎が丸木舟を造り、便宜をはかっていたのが始まりで、1895 年（明治 28 年）に私設渡船場として許可を受けて経営された。西 21 号道路より江別市志文別に通じる夕張太渡船場は、本町において最も早く開かれた渡船場である。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



23

ふりがな やまだぶしちにゅうしょくち
史跡名 山田武七入植地
所在地 南幌町南 13 線西 22 番地

【説明】

1886 年（明治 19 年）6 月に新潟県出身の山田武七氏が、アイヌにユウハリフトと云う耕地に適している土地があると聞き、翌年に現地を視察し、さらに翌年 5 月に家族共々現在の場所に入地し、草小屋を建てて開墾を始めたと言われている。当時の写真は、夕張太開拓時。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



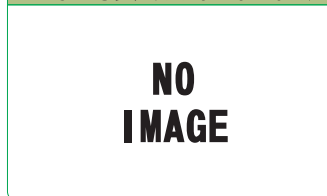
24

ふりがな ほろむいそんりつゆうばりぶとじんじょうしょうがっこうあと
史跡名 幌向村立夕張太尋常小学校跡
所在地 南幌町南 13 線西 22 番地

【説明】

1899 年（明治 32 年）3 月 1 日に開校した。当初は、男 9 名、女 3 名が収容され、代用教員の上山七松が教育にあたった。本校は開校と同時に簡易教育規程により、夕張太簡易教育所として発足したが、1908 年（明治 41 年）3 月に特別教育規程が改正により、同年 4 月 1 日夕張太教育所と改め、1917 年（大正 6 年）4 月 1 日夕張太尋常小学校と校名を変更された。

当時の写真（とうじのしゃしん）



現在の写真（げんざいのしゃしん）



Google Map（グーグルマップ）



19	ふりがな	ほろむいそんりつばんすいじんじょうしょうがっこうあと
	史跡名	幌向村立晩翠尋常小学校跡
	所在地	南幌町南 11 線西 15 番地
【説明】 地域住民の間で小学校設置の要望が高まり、鈴木平作、越智国助などが中心となり、学校創設の申請を行い、地域住民の寄付で、資材や労力は住民の協力によって、1899 年（明治 32 年）3 月 1 日に開校した。以来、1935 年（昭和 10 年）に南 12 線西 15 番地に校舎を新築移転するまで使われていた。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

20	ふりがな	しらとりめまあと
	史跡名	白鳥沼跡
	所在地	南幌町南 13 線西 17 番地
【説明】 水深の浅い周囲 20 丁余り、本町開拓の初期までは魚類や多くの水鳥が棲息していた。鳥類の中で特に白鳥が多く、その姿も優美であったので白鳥沼とした。 1939 年（昭和 14 年）、この地に入植した高橋理一郎の手で干拓され、農耕地となった。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

21	ふりがな	しらとりじんじゃあと
	史跡名	白鳥神社跡
	所在地	南幌町南 13 線西 17 番地
【説明】 晩翠地域においては、1895 年（明治 28 年）6 月 15 日垂水幸五郎・渡辺浜太郎などが発起人となり、この地に日本武尊を祭神とした白鳥神社を創建した。 1896 年（明治 29 年）には、祭神の像を造り安置し、1900 年（明治 33 年）には熱田神宮より分霊を奉遷し、合祀した。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

16	ふりがな	おおのじんじゃあと
	史跡名	大野神社跡
	所在地	南幌町南 15 線西 11 番地
【説明】 福井県出身者が多く入植した大野開墾地においては、1897 年（明治 30 年）4 月宇多田市がこの地に八幡大神を祀り、八幡神社と称し、毎年 8 月 15 日を例大祭とした。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
NO IMAGE  		

17	ふりがな	ほろむいそんりつかくじょうじんじょうしょうがっこうあと
	史跡名	幌向村立鶴城尋常小学校跡
	所在地	南幌町南 17 線西 12 番地
【説明】 子弟教育の施設を強く望まれる中、福井県出身の開拓者である広田甚太郎は、自己の所有地 600 坪を小学校敷地として寄付、小学校建設に奔走し、1899 年（明治 32 年）2 月 15 日に尋常小学校として開校し、1970 年（昭和 45 年）3 月 31 日をもって南幌小学校に統合され廃校となった。当時の写真は昭和 10 年代の鶴城小学校時代。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

18	ふりがな	ふじたとせんばあと
	史跡名	藤田渡船場跡
	所在地	南幌町南 20 線西 12 番地
【説明】 江別・長沼を結ぶ本町の西 12 号道路は 1895 年（明治 28 年）開通された。この 12 号道路は 1926 年（大正 15 年）4 月 7 日、準地方費道路に認定されたので藤田渡船場の施設は、公費によって管理されることとなり、長沼村長が責任者となったが、1936 年（昭和 11 年）夕張川切り替え工事完成に伴い、自然廃止となった。		
当時の写真（とうじのしゃしん） 現在の写真（げんざいのしゃしん） Google Map（グーグルマップ）		
  		

南幌町 史跡・標柱位置図

	史 跡 名	住 所
1	幌向村戸長役場跡	元町3丁目1-7
2	幌向村公会堂跡	元町3丁目1-7
3	幌向駅通所跡	元町3丁目3-19
4	幌向郵便局跡	元町3丁目
5	幌向運河第3閘門跡	南13線西 9番地
6	競馬場跡	南12線西 9番地
7	大正園	元町3丁目2-1
8	幌向村立南幌尋常高等小学校跡	元町3丁目
9	新夕張川切り換え地点	南16線西 0番地
10	五十鈴神社参道入り口跡	南12線西 4番地
11	幌向村立育生尋常小学校跡	南12線西 5番地
12	幌向村立青葉尋常小学校跡	南16線西 6番地
13	石川邦光屋敷跡	南17線西 3番地
14	丸金渡船場跡	南17線西 5番地
15	八幡神社跡	南16線西 6番地
16	大野神社跡	南15線西11番地
17	幌向村立鶴城尋常小学校跡	南17線西12番地
18	藤田渡船場跡	南20線西12番地
19	幌向村立晩翠尋常小学校跡	南11線西15番地
20	白鳥沼跡	南13線西17番地
21	白鳥神社跡	南13線西17番地
22	夕張太渡船場跡	南12線西22番地
23	山田武七入植地	南13線西22番地
24	幌向村立夕張太尋常小学校跡	南13線西22番地
25	鶴沼跡	南18線西17番地
26	夕張太尋常小学校跡地	南14線西20番地
27	夕張鉄道南幌向駅跡	中央2丁目4-1
28	夕張鉄道晩翠駅跡	南11線西14番地
29	開拓初期の墓地跡	南15線西 6番地
30	小林渡し跡	南19線西10番地
31	伊勢開墾跡	南12線西 6番地
32	東幌小学校跡	南14線西 5番地
33	晩翠小学校跡	南12線西 5番地
34	夕張太神社跡	南13線西22番地
35	本町基盤目状測量家 水野太平屋敷跡	南17線西 4番地
36	木詰の地跡	南20線西16番地

